

Book Review

自費診療のための ステップアップ審美修復

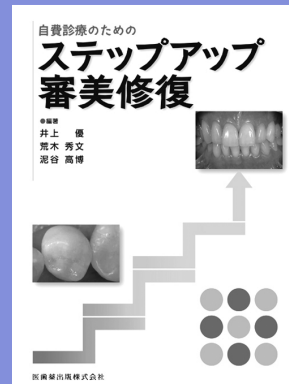
井上 優・荒木秀文・泥谷高博 編著



Reviewer

下川公一 Koichi Shimokawa
(福岡県・下川歯科医院)

A4 判変, 120 頁
オールカラー
定価 (本体 7,400 円+税)
医歯薬出版刊



今、本書『ステップアップ審美修復』が話題となっている。題頭に【自費診療のための】と示されているが、まさにそれにふさわしい内容である。CR 修復は保険診療の範囲ではどの診療所でも同じようなことをやっている。しかし、審美を極め、なおかつそれが不変的で、天然歯のように未永く機能させるためには術者としてはかなりの知識、技術、執念が必要となるであろうし、保険診療では限界がある。

本書の序では、「私達は審美を追求していくためにはまず 1 本の CR 修復を極めることは不可欠だ」と述べているが、これは素晴らしい臨床概念である。「CR 修復を一歯成功させると、術者が一窩洞を大事に治療しているという空気は必ず患者さんに伝わり、感動を与える」とも書かれている。そして、CR 修復を成功させるためには、歯肉のプラークコントロールが必要不可欠であり、当然治療後の徹底したメインテナンスも欠かせない。そういう意味では、予防・治療・メインテナンスの概念が患者さんにも徹底されるので、

歯科医院としてもいい方向に進んで行くことになる。

また、本書では CR 修復で押さえておきたい 10 のポイントという発想から内容が整理されて書かれているが、これは実にわかりやすく斬新である。特に、前処置としての歯周基本治療 (PMT) の目的が簡潔に整理されて述べているが、この内容は正にそのとおりであり、この点はすべての治療に当てはまるであろう。また、欠損のかなり大きな症例にもバックウォールを製作してデンチンシェードを築盛しながら全く大きな修復をしたとは思えないような美しい術後をみごとに提示している。

セラミック修復のポイントにおける色合わせのポイントの一つとして明度に迷う場合はグレースケールを使用することをすすめているが、実に的確な臨床ヒントである。

本書は、歯科医師だけではなく、患者さんがみてもどのような術式によってどのような治療結果が得られるのか非常に参考になりわかりやすいレイア

ウトである。また、セラミックインレーのデザインは接着技術の発展に即したデザインで行うと書かれているが、けだし名言である。セラミックインレーや、ラミネートベニアも同様に 10 のポイントに分けられて解説されているが、それらの接着の仕組みと、そのポイントが実に明解でわかりやすい。

今までは大きなフルマウス症例やインプラント症例に目を奪われがちであった臨床が、こうしたごく初歩的な CR 充填の精魂こめた治療と予後管理のもとに行われ、それが患者さんに評価されているとすれば本当に素晴らしいことで、うらやましい限りである。今回は審美的に絞って書かれているが、次回はその機能性にも工夫して、審美と機能が一体化した症例を呈示したものをぜひ書いてほしいものである。いずれにしても、本書をスタート地点として歯科医療のさらなる発展を期待したい。ぜひ手元に一冊おいて、じっくり読んで臨床に生かしてほしい書籍である。